

昭和19年3月1日（水）

曇り。二十八日月曜日朝、福岡へ。蜜柑13、うどん、貝の實、牛肉等。余事務服の仕度直し。お婆さん縹子（しゅす）の帯を解き、修補用として白糸と共に送りしが、澄子之を請取らずに出発。午後到着、福岡より立続けらし。痔に悩み居る。夕飯焚いて呉る。湯に行く。澄子より水飴貰ふ。坊やズボン持来る。

昭和19年3月2日（木）

快晴。千円以上切手請求。十時を過ぎ納金持行く運びに至らず、遂に余行く。みわさん坊を連れ他に行かる。十一時半より中津局行き。切手未だ出ぬと云ふ、帰局す。外出先より、みわさん電話局に立寄ると云わる。之を諒とし余出掛けざりし。澄子タドン造り、昨は炬燵掛けを造りくる。夕食後、みわさん澄子を代表してねんねこを持行かる。澄子の丹精新調もの、外にエビの天プラ持行かる。昨理髪福岡行き以来、実に三ヶ月振りとす。澄子余の無精を攻む。不得已、出掛く。40支払ふ。

昭和19年3月3日（金）

曇り。気温低下。鰯（ぶり）千貫魚市場より隣保班に頒与、各戸二百匁に当たる。余の家120匁、60頗る廉（やす）し。夕食におさし身、及び煮附けにて頂く。常会の宿、愈々明晩に決す。

昭和19年3月4日（土）

朝来降雨。終日降る。夕方歇む。切手類請求。みわさん資金納付に出掛けらる。四時過ぎ請取りに余行く。未だ誰も販宅せられず。明日曜日の執務に付き、新聞では

日曜取止めとありて、其の態勢下、通牒を俟ちしも沙汰なし。午後七時半より常会、余行事を指揮す。十時閉会。十一時半まで仕事す。此日長電森田氏官報の暗號に付き、中津局に打合わす。余差支えなしと主張す。朝、防空打合わせ会警察行き中止となる。

昭和19年3月5日（日）

正午近く公報着。日曜の休暇取止めとなる。次いで電報、無集配は正午までとなる。午後よりみわさん澄子、潮湯行き。富士パン食べ三時過ぎ飯らる。午後快晴。昨夜森田さん妹、坊ちゃん連れ来られ、今日午後より飯省さる。例により土産物多しとみわさん吹聴さる。人員配置の都合にて閉局の俣とす。昨道子の葉書。齒療治頗る大げさに申来る。澄、泣いて心配す。みわさん其の葉書持参、角野先生かかり行き意見を徴す。角野氏も余り医者が大げさなり、骨膜になる如きは頗る稀なり、心配なしと云わると。

昭和19年3月6日（月）

朝来、風強烈。気温低下。時々陽射しあるも概ね曇る。高額切手請求。之が払込みに、みわさん坊連れ行かる。受領には余行く。午後より澄子北浦町に行く。坊も連れる。夕飯後、湯に行く。

昭和19年3月7日（火）

澄子飯る日。味噌飯18合炊く。御握りして持行くこととなる。味噌、人参、白菜、巻柿等遣る。零時過ぎの汽車にて出発。拾円小遣いにやる。切符は別に求めて遣はす。澄子去って後降雨。乾し物、林の嫁さん持込み呉る。此

夜、味飯の油煎りを頂く。油は髪油らしく臭気あり。之を食べた余、腹具合悪く停滞の姿なり。

昭和19年3月8日（水）

果然吐瀉物あり。みわさん頗る驚愕、青松を聘（と）ふるかと質す。六時神様かかり行かる。午後より防空演習に出勤す。午前中佐世保の松川菊雄来る。胡麻、白米、砂糖其の他色々持来る。十一時の汽車にて販る。味飯にホーレン草の汁造りやる。巻柿五本求め土産にやる。風強く晴れ、夕方曇ったり。気温降下。尚みわさん昨夜より敖（ごう）下痢、今朝絶食す。

昭和19年3月9日（木）

昨燈火管制発令なかりし。朝来曇り、後降雨。少時して歇む。森久より印紙400円請求あり。序でに切手をも請求す。葉書一ヶ月一万八千と通知あり。本日六千に対し全部交付を受く。栄町より木炭二俵6、10持ち空す。午後、俵携行せよと電話あり。みわさん弁当屋よりリヤカー借り、中津局を経て栄町に行くことになる。此の朝大川家具屋の婿さん応召、出発す。佐賀に入営する由。午後九時半寢床。坊湯に行き眠りて販る。十時を過ぐ。夏蜜柑一ヶ拾銭、澄子居りし際求め来られ、強一ヶ本日頂く。

昭和19年3月10日（金）

晴天なるも、風強く甚だ寒し。みわさん快気祝いとして局員を犒（ねぎら）う。魚なく名古屋フグを求め来られ、森田さん岩尾さんら加勢を願いたり。切手類請求見合わす。昨和博悦子来たり。澄子へ糯米二升程届けて呉れと持参。蜜柑一つ宛て遣る。余福岡行きの際、携行。予

定日今日午後より。朔風を伴へ飛雪給せ、半時間程継続す。みわさん病氣全快を自祝、局員の援助を得て名古屋フグにて夕飯を餐す。蜜柑班長さんから求め来らる。

昭和19年3月11日（土）

裏の垣塀の板の上に、雪多少積み居り。寒気思ひの外凜烈なり。電話線大分及び山間部方面に不通箇所あり。国債百円券二十枚到着。森久千円券二枚請求あり。時間多少遅れたるも、承諾を得て請求。正午より受取りに出掛けて行く。みわさん坊連れ早くより外出。此日みわさん快氣祝いを目論見し。局員の協力にて飯焚き。午後六時過ぎ、みわさん坊を交えて二階にて喫飯。一升八合の米、全部売切れとなる。此の前の饗応日にも、天候不良、気温低下したるが、昨日の催しにも同様。今にも降雪せしかとの想定せらる。此日も劣らず寒気強し。

昭和19年3月12日（日）

昨森田さん昭ちゃんと帰省。牛肉や何かの物資豊富に買込み持参せらる。此日为替貯金前田さん、郵便は荒巻さん。八重子妹と餅沢山持参。蜜柑、海老の天麩羅等返礼す。キンツバ道子より注文、二円送付越す。本朝求め来らる。快晴、戸外は暖かにて寧ろ暑い位。千円国債三枚剩り、夫れを売捌く為、百方奔走さる。昨大工を世話され、夕方より糯米一升黄粉二合程貰ひ、亡母の祭祀日に萩の餅でもして呉れと云はる。八重子方は明日お宮詣りと云ふ。餅は雑煮にする手筈。みわさん坊を連れ外出して販らず。五時を過ぐ。聞く処に依れば、福島クニさんの婿さんビルマより販り、千葉県下志津飛行学校の教官として近々赴任の由。偶々其の人、家に在り餡（あん）

餅して食べて居る。請ずる俣上がり込み、餡餅貰ひ砂糖をねぶる。帰るさ柿餅沢山貰ひ来る。

昭和19年3月13日（月）

昨の快晴に反し、午前中多少陽射しありしも曇天に終わったり。無烟炭三時頃消えたり。其の俣起こさず。此の朝福岡に小包梱包す。八重子よりの糯米、海老の天麩羅及び天麩羅蒲鉾、道子の注文キンツバ二円分にて四匁（キログラム）あり。小包を始末して掃除を初む。十時になる。荒巻さん出勤さる。余掃除を済まし神仏に神水を備え、花や櫛を水を換えて出勤せしは十時半に近し。朝飯七時に済ます。

昭和19年3月14日（火）

夜半より降雨。朝、街路掃除取止む。雨は黎明と共に歇む。天候持直す。気温上昇。ストーブ二度火を入れたるもおこらず、其の俣中止す。又火を要求する寒さを感じざるに至る。切手請求にみわさん坊連れ行かる。中津局より電話催促さる。貯金切手十九枚残り、売りに行かる。十枚売れたり。切手受取りに三時より、余坊連れ行く。島田貴船神社祭典、神輿出る。四時頃町内を通過、駅前より折返す。穴瀬さんより巻柿十ヶ持来らる。今、此等物資も容易に手に入らずと云ふ。夏蜜柑、何れよりか余の為に購入し来らる。みわさん巖方に行かる。弾丸切手二枚売って来らる。

昭和19年3月15日（水）

曇り、時々陽光を仰ぐ。午後一時より市庁舎会議室に於ける官庁、会社、学校、工場方面責任者参集に依り、待

避所設置問題に付き協議。午後三時閉会。余出席、中津局より阿部主任出席。木下主事老婆逝去、忌引きの由。陽射しあるも可なり寒し。大鉢に火なし。今日神様祭典。午後二時より、みわさん坊連れ出席。ストーブ焚く。

昭和19年3月16日（木）

曇り、時々陽射しあり。午後雨降るも、間もなく歇む。坊やの蒲団乾かしたる俤にしありしも、結局乾く。みわさん息をはずませて郵便窓口切手計算中止を責め、森田さんに百円二百円云々、私憤を洩らす。里芋雑炊に入るべき旨話さる。余皮剥きせんとす。其の必要なし自分がやるとて、余を出しゃばりと罵倒す。夕飯時粥が出来た、味噌でも醤油でも入れて呉れと云はる。余「出しゃばる」まいと思ふ、勝手にせられよと云えば憤慨。釜を櫛で附けるように、しゃもじも蓋も狼藉となる。将に悪魔の仕業としか思はれぬ。併し多く責めざりし。夜夏蜜柑余に薦め、夫れとなく機嫌をとらる。切手請求せず。

昭和19年3月17日（金）

曇り。朝坊連れ資金請求、販りに風呂敷包みを負わせて手を引き遣る。昭ちゃん販省。明日より中等学校入学試験。其の前後休業、多分本月一杯休みなるべし。

昭和19年3月18日（土）

曇り。切手請求みわさん行かる。午後より余行く。みわさん坊連れ一緒に出掛けらる。昨大分放送局よりラジオ相談所巡回、技手臨局。四時前後に試験の結果、抵抗器不良の旨判明す。此日受信機持出す筈にして其の儘とす。偶に本町を京町に折れて本局に至るものとせば、ラ

ジオを携行すべけんものと思ひ、又毛拔本町元簡保相談所入口の向い側、金物屋より30にて極大を求め、日本鍬を田洩及び一二軒聞き合わせしも品切れ。裏の金物屋にて極小36求め来らる。同様の品物、溝口にて65と云ふ。一般に溝口は品物は多数あるも、値段は高い様なり。明日の準備、黒小豆、煉炭火鉢に煮らる。

昭和19年3月19日（日）

午前中晴れ。九時三十分より仕度して下駄穿きにて中津局に行く。逓信局より大分分担当書記、昨南部会を終えて、此日当部会に臨まる。十九年度三百六十、倍目標額突破に付き研究。昼中食は各自携帯行糧を食し、一時より再会。三時閉会。此朝、故母堂の為に萩の餅を作る。餡（あん）も佐世保から貰った砂糖を全部使用。黄粉も山本さんから貰ひし分全量を造らす。教会に15差上げ、森田さんにもやる。三時中津局より販れば、福岡より事務服の小包到着。布地不足の為、多少無理の点あり。三時夕飯、萩の餅残りを頂く。教会に供物の萩の餅は、夕食時に頂きたるや、坊やも餡一、黄粉一食べ、みわさんは返せりと。教会の先生甘い物好きらし。

昭和19年3月20日（月）

為替前田さん、岩尾さん感冒休暇。ウドン沢山届けて来る。切手請求せず。此の夜、中津局慰安会。古田鉄工所の老母、娘が中津局為替係に出勤し居る関係より、此日舞踊ある旨誨（おし）へたるより、庶務に電話し出席す。逓信報国団慰安会らし。パン三ヶ入り一袋貰ひ来らる。九時頃販局。頗る面白かったらし。

昭和19年3月21日（火）

春季皇霊祭。教会に数回行かる。朝うどん、夜阿部さん本部参詣切符購入依頼さる。六時に行き、七時に行かる。制限売切れとのこと、高級助役に面会懇談さる。阿部さん及び其の子息別々に、みわさんを訪ねて来らる。遂に助役の私宅に乗込み、電話にて命令。三枚発車間に駆け付け間に合う。みわさんの斡旋の功に依るか、阿部さんの徳に販すべきか、上り列は定時より遅れたるさへ、尚に意義を発見すべしと思料す。

昭和19年3月22日（水）

岩尾さん病気。切手請求は余出掛け、受取りにはみわさん行かる。森田さん母堂来らる。正明さん昭ちゃん引率。澄子より坊や引取り方、色々申出づ。返事葉書にて発送。夜七時半、みわさん態々中津局に持行かる。堅パン油にていたむ。乾蓆沢山、米代用に交付あり。序でに油いりす。油欠乏、思ふ程出来ざりし。

昭和19年3月23日（木）

晴れ、夜曇り。時々陽光を仰ぐ。活動俳優の実演、森田さん母堂正明ちゃん昭ちゃん等、挙家観劇。正明ちゃん行くに坊や取残され、大いに泣く。スッカリ友達となり、遊びに夢中となり居る矢先なればなり。夕食うどん、中殿より1, 50うどん買ふて来らる。吉富の松田さんから甘酒貰ふ。坊や喜び飲む。此甘酒は麴ばかりで造りし如し。最初一向甘味なかりし。火に温め攪拌するうち、自然に甘味を呈せり。岩尾さん出勤さる。



昭和19年3月24日（金）

切手請求みわさん行かる。受取りに余行く。坊二階に上り正明ちゃんと遊びに夢中となり、外出を肯（がえん）ぜず。敢えて強へず出掛けたるに、漸く降りて来て蹠跣（はだし）で飛び出し泣き叫ぶ。仍（よっ）て引返し連れて引く。階下に俟たせ葉書六千は余、切手類は坊に負はす。寺町天満宮祭日ノボリ二旒（にりゅう）樹ち居る。大太鼓の音とうとう、坊余の手を牽き境内に連れ込む。乃ち礼拝して販る。坊両側に建つ燈籠に合掌し、余にも之を覓（もと）む。余も真似る。此日風強く裏の垣根に干した敷き布団、前の泥溝に落込み、汚水を吸収して綿を穢（けが）す。森田母堂水に注（そそ）ぎて乾かして下さる。更に徹底的に洗濯して下さる由。

昭和19年3月25日（土）

岩尾さん昨日別府より電話あり。此日午後より森田さん母堂、昭ちゃんを残して岩尾さんと大分行き。快晴、戸外の散策に適す。今朝寒気可なり凛烈。東京より便りに数日前降雪、幾分積みし如し。坊の履き物を送って来るらし。塩川より納豆送りし旨葉書あり。既に其の荷物は駅に到着し居る旨、森田母堂小荷物受取りに行かれし際、発見、注意し下さる。後刻みわさん請取り来らる。南瓜の種子と一緒に送付越せり。森田母堂、坊の敷き布団、表は糊付け縫うて下さる。栄町長明日別府行き。切符買出し不能の俣販らる。

昭和19年3月26日（日）

快晴。森田母堂、昭ちゃん、正明ちゃん等三百軒に貝拾いに行かれ、夕方帰らる。汐引き午後三時、夫れまで芹

摘みして居らると。大きな貝沢山拾はる、お土産が出来たとて。大分行き森田さん、夜十時頃帰らる。此日為替前田さん、郵便荒巻さん、正午片付け帰宅。余乾し甘藷にて団子を作る。坊や神様行き、公園池に遊ぶ。

昭和19年3月27日（月）

朝、森田さん岩尾さん、朝来雨模様、阿部さんに特別の好意にて50銭切手200枚交付する旨、申出られ請求す。受取りみわさん、然るに請求と反し50銭切手交付なし。此の夜中津局慰安会、映画ある由。夜に至り阿部さんに質す。明日交換し遣るとのこと。猶、映画観賞にみわさんの来局を案内さる。福岡に小包梱包。人参、白菜、里芋、堅パン、干甘藷の油いり其の他に四疋を超過す。午後五時頃漸く出来上がり、小包出す。納豆挿入を失念す。更に明日納豆計りを送ることとせり。十時頃より雨、本格的となる。

昭和19年3月28日（火）

切手請求みわさんに行って貰ふ。十時の汽車にて森田さん、正明ちゃん販る。家より巻柿一本呉る。昨阿部八百さんに頼まれ、助役さんに東京行き急行切符を購入方依頼に出掛けられ、算盤一ヶ及び巻柿二本持行かる。二十九日分急行は全部売切れと云ふ。雨終日降り続く。此朝漸く歇む。里芋調理、二時間費やす。煮て貰ふ干甘藷還元。朝納豆と柿餅アラレ等、小包にて福岡に送る。佐世保の宗一氏より茶、返礼に送付越さる。切手請取りにも、みわさん坊連れ行かる。

昭和19年3月29日（水）

曇り。森久より一銭二銭切手多数請求あり。次いで神戸製鋼より拾銭二十五銭三十銭等の切手、百円以上買受け申出ありて、残高千円を超過せり。昨夜湯煖房を廃したるに、矢張り多少の不便を感じ。此の夜は之を復活す。此の朝団子造る。夜雨。

昭和19年3月30日（木）

曇り。切手請求みわさん行かる。午後の現品請取りも行つて貰ふ。雨模様となり、降雨来。三時より里芋皮剥ぎす。道子より久子を浜口に嫁することに付き、更に照会越せり。坊や中津局にて所在不明となり、局員有志八方を搜索するも皆目知れず。警察へ訴えんとして電話し来らる。坊や既に来たり。「とことこトコトコ来た」と平気なもの。大変心配を各方面に及ぼせし如し。阿部さん東京行き中止。切符返戻しに付き、みわさん木本助役かかり夜行かる。明日払戻すと謂はる。

昭和19年3月31日（金）

概して曇り、時々晴れ。みわさん構内案内係にて、拾銭差引かれ、料金還付を受け、夕方阿部さんへ届けられ、夏蜜柑一つ貰ひ来らる。坊や俺に食べよと唆す。